

## 令和8年度 学校経営計画書

学校番号	45	学校名	静岡県立清流館高等学校	校長名	山梨 祥子
------	----	-----	-------------	-----	-------

## &lt;教育目標&gt;

《成長する人》 - 広い視野のもと、主体的に学び、意欲的に努力する生徒を育む

《共生する人》 - 自他を敬い、多様な生き方を認める生徒を育む

《有為の人》 - 高い規範意識を持ち、地域社会に貢献する生徒を育む

## 1 スクール・ミッション

志棹地区において、普通科と福祉科を設置する地域に根差した学校として、基礎基本を大事にした授業、持続可能性や地域の課題に目を向けた探究学習や生徒主体の学校行事を通して、地域に生き、自他を敬い共に暮らし、地域社会に貢献する人材の育成を目指す。

## 2 目指す学校像

## (1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<b>普通科</b> (1) 確かな学力を育成します。 (2) 身に付けた知識や技能を活用する思考力・判断力・表現力を育成します。 (3) 地域に貢献し、地域のリーダーとして活躍できる実行力を育成します。 (4) 地域の課題を探究し、その解決に向けて取り組む発想力と行動力を育成します。 (5) 一人一人の人権を尊重し、多様な他者と協働して活躍できる力を育成します。  <b>福祉科</b> (1) 心身の状況に応じた介護を実践できる生徒を育成します。 (2) 介護現場において、主体的に課題解決に向けた行動ができる生徒を育成します。 (3) 持続可能な共生社会を目指す生徒を育成します。	<b>普通科</b> (1) 思考力・判断力・表現力を身に付けるために、基礎学力を基盤とした主体的対話的で深い学びを実現する授業を実践します。 (2) 他者と協働して取り組む資質・能力と豊かな人間性の育成を目指して、地域と連携した学習機会の充実を図ります。 (3) 将来の進路に関連する基礎的な知識・技能を習得するために、選択科目等を体系的に編成し、実践します。  <b>福祉科</b> (1) 介護技術の基礎・基本を身に付け、心身の状況に応じた介護の実践を目指します。 (2) 現場実習を通して、職業人としての責任感や倫理観を身に付けます。 (3) 地域の福祉活動に参加し、共生社会について学びます。	<b>普通科</b> (1) 自分と他者を大切にして、個性や長所を伸ばそうと努力する生徒を募集します。 (2) 他者の人格や人権を尊重することができる生徒を募集します。 (3) 常に向上心を持って、何事にも熱心に取り組むことができる生徒を募集します。 (4) 夢や希望を持ち、将来の進路実現に向けて前向きに取り組む生徒を募集します。 (5) ボランティア活動や地域防災など自分の力を社会に役立てたい生徒を募集します。  <b>福祉科</b> (1) 福祉・介護に関心があり、本校での学びを将来生かそうと考えている生徒を募集します。 (2) 介護福祉士国家資格取得に意欲的に挑戦しようとする生徒を募集します。

## (2) スクール・ポリシー具現化の柱

- ア 思考力・判断力・表現力を伸ばし、主体的・対話的な学びを深めるとともに、課題解決に向けて探究的に取り組む態度を育む。
- イ 自立的な生活習慣を確立し、互いを認め合い尊重する豊かな心を育む。
- ウ 社会の一員として貢献する自覚と高い志を持って、自らの進路を切り拓く力を育む。
- エ 教育諸活動に係る生徒への支援体制の充実を図り、信頼される学校づくりに努める。
- オ 「総合的な探究の時間」を柱として、外部との連携による学習機会の充実を図り、地域社会のリーダーとして活躍する人材を育む。
- カ 周囲との協調性を重視し、他者の人格や人権を尊重する豊かな人間性を備え、多様な他者と協働して活躍する人材を育む。
- キ 福祉・介護に関する知識及び技能を高め、持続可能な共生社会の担い手としての人材を育む。
- ク 職員と家族のウェルビーイングを追求し、働きやすさと働きがいとを両立する。

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	思考力・判断力・表現力を伸ばし、主体的・対話的な学びを深めるとともに、課題解決に向けて探究的に取り組む態度を育む	<p>(1) 【授業改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「わかる」「できる」「自分の学びが人の役に立つ実感を持つ」を意識した授業の実践</li> <li>・学び続ける教員</li> <li>・ICT機器の効果的活用</li> <li>・学びの基礎診断や模試の結果の活用（適切な教育目標の設定、既習事項の確認等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ほめられたい」「努力が報われた、頑張ってよかったと実感したい」という生徒の気持ちを受け止める授業の工夫と実践</li> <li>・授業で「何ができるようになったか」が実感できる工夫と実践</li> <li>・「指導のレベルに満足している」生徒 80%以上</li> <li>・授業でICT機器を効果的に活用する教員 85%以上</li> <li>・生徒への適切な家庭学習課題の指示</li> <li>・相互に教員が授業見学をする 年2回以上</li> <li>・「授業の内容がわかる」と答える生徒 80%以上</li> <li>・「学ぶ面白さを感じた」と答える生徒 80%以上</li> <li>・学びの基礎診断や模試の結果を学年・進路課で活用し、生徒が自己調整力を高めている</li> </ul>	<p>教務課 情報管理室 研修課 進路課 学年部 教科</p>
		<p>(2) 【観点別学習評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別評価の実践と改善</li> <li>・成績処理システムの適切な運用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科内での共通理解の下、適切な目標の設定と、それに準拠した評価を行っている</li> <li>・成績処理のミス0件</li> </ul>	<p>教務課 教科</p>
		<p>(3) 【家庭学習の習慣化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学びの基礎診断」の結果を踏まえた適切な学習課題の提供</li> <li>・学習方法の丁寧なガイド</li> <li>・ICT機器の活用による自主学習習慣の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業以外の学習を週5日以上行う」と答える生徒 45%以上</li> <li>・生徒が進路実現や自己目標達成に向けて努力している</li> <li>・「学習方法を自分なりに身に付けている」と答える生徒 75%以上</li> <li>・「学習にICT機器や学習ツール（生成AI、マナビジョン、キャリアナビなど）を活用している」と答える生徒 75%以上</li> </ul>	<p>学年部 進路課 教務課</p>

		<p>(4) 【読書による学びの深化、心の成長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館利用の促進</li> <li>・学習センター・協働の場としての図書館活用</li> <li>・「読書 MAP」の活用</li> <li>・「清流館の 200 冊（仮）」の読書案内</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館構想図の作成</li> <li>・図書館講座等各種ガイダンスの開催（年 6 回）</li> <li>・月間無読者の割合 30% 以下</li> <li>・「読書 MAP」への読後感の記入 年 5 冊以上</li> <li>・「読書が、人の気持ちを考える、社会のことを知る、知識を得るなどに有用である」と答える生徒 75%以上</li> <li>・「清流館の 200 冊（仮）」をはじめ、自ら興味・関心のある分野の本を読んだ生徒 75%以上</li> </ul>	<p>図書課 学年部 教科</p>
イ	<p>自立的な生活習慣を確立し、互いを認め合い尊重する豊かな心を育む</p>	<p>(1) 【基本的な生活習慣の徹底】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内での生徒・教職員のあいさつの励行</li> <li>・身だしなみ指導</li> <li>・SNS 等の適切な使用に関する継続的指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員も率先して挨拶する。</li> <li>・「進んで挨拶ができる」と感じる生徒と教員の回答差 10%以内</li> <li>・「正しい身だしなみ」と感じる生徒と教員の回答差 30%以内</li> <li>・SNS の不適切使用による生徒指導案件 0 件</li> </ul>	<p>生徒課 学年部</p>
		<p>(2) 【特別活動の活用】</p> <p>学校行事、生徒会活動、HR 活動への積極的な取組と効果的な運用及び思いやりの心と協調性の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による行事の企画・運営</li> <li>・「委員会・係活動が充実している」と答える生徒 80%以上</li> <li>・縦の人間関係づくりにつながる機会の活用</li> </ul>	<p>生徒課 学年部</p>
		<p>(3) 【部活動の改善】</p> <p>持続可能な部活動新体制への取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「部活動が充実している」と答える生徒 85%以上</li> <li>・県教育委員会の「部活動改革の取組」に示された部活動の在り方を実行し、必要に応じて改善に取り組む</li> </ul>	<p>生徒課</p>
		<p>(4) 【健康の保持及び増進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬学講座実施 年 1 回</li> <li>・健康教育講座 年 1 回</li> <li>・保健だより発行 10 回以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活リズムや食事など健康を維持することを意識している」と答える生徒 80%以上</li> <li>・治療勧告に対する受診率 75%以上</li> </ul>	<p>保健課 学年部</p>

様式第 1 号

		(5) 【環境整備】 ・廊下・教室の美化 ・施設をきれいに使うという意識付け ・ごみの分別	・「廊下・教室の美化に取り組 み、ごみの分別を行って いる」と答える生徒 85%以上	保健課 学年部
		(6) 【豊かな感性の醸成】 ・芸術鑑賞教室を活用した 豊かな感性や鑑賞態度の 育成	・生徒満足度 80%以上 ・アンケートにより効果と 課題を職員間で共有する	図書課
ウ	社会の一員として貢献する 自覚と高い志を持って、自 らの進路を切り拓く力を育 む	(1) 地域や国の課題に関心 を持ち、解決のために 考え、行動できる基礎 力の育成	・市選管による出前授業や模 擬投票等を通して、地域や 国の課題解決への意識を 高める	地歴公民科
		(2) 企業、福祉施設、大学等 との連携によるキャリ ア教育の充実と職業観 の育成	・生徒向け進路ガイダンス の内容を精選し、3 回以 上実施 ・生徒・保護者・教員向け進 路講座の内容を精選し、 年 3 回以上実施	進路課 学年部 福祉科
		(3) 修学旅行を通して、平 和への意識を高め、自 然や生活文化の違いを 知り、集団において適 切な行動をとる	・「平和について意識が高 まった」「自然や生活文化 の違いへの理解が深まっ た」「他者を思いやる行動 ができた」と答える生徒 90%以上	2 年部
		(4) 高い目標を持たせる 進路指導と進路目標の 実現	・3 年生進路目標の実現の 満足度 90%以上 ・「必要な進路情報を入手 するために自ら行動す る」と答える生徒 80% 以上 ・適切な時期（タイミング） での生徒及び保護者への 進路情報や進路行事情報 の提供 ・必要に応じた特別指導 （小論文、面接等）の充実 ・1・2 年生対象の平日補 講により生徒の視野を広 げ、教養レベルを高める	進路課 学年部
エ	教育諸活動に係る生徒への 支援体制の充実を図り、信 頼される学校づくりに努め る	(1) 地域に信頼される学校 づくりに向けた取組の 充実	・スクール・ミッション、ス クール・ポリシーに基づ く、教育活動の円滑な実 施 ・行事等の目的と学校経営 計画とのつながりを明確 にして職員間で共有する	全職員

様式第 1 号

		(2) 相談室を核とした特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SC・SSW や外部専門機関との連携が取れている</li> <li>・相談室情報連絡会議年 7 回、特別支援委員会年 5 回</li> <li>・卒業後の生徒の自立につながる支援の在り方研究</li> </ul>	相談室 学年部
		(3) 適正かつ効率的な予算執行による教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会計研修実施 年 1 回以上</li> <li>・適正かつ効果的な予算配分及び計画的な予算執行が行われている</li> </ul>	事務室
		(4) 学校危機管理体制の向上及び防災意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理マニュアルの活用促進</li> <li>・「校内防災訓練で防災意識が高まった」と答える生徒 80%以上</li> <li>・総合防災訓練や地域防災訓練参加生徒 延べ300人以上</li> </ul>	総務課
		(5) 学校ホームページ、学校公開、地域活動等による清流館高校の魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA 広報紙「清流館だより (5 月)」を発行し、魅力を周知する</li> <li>・福祉科広報の充実</li> <li>・学校公開 (年 2 回) 参加者の満足度 90%以上</li> <li>・学校ホームページの充実</li> </ul>	総務課 研修課 福祉科 情報管理室
オ	<p>「総合的な探究の時間」を柱として、外部との連携による学習機会の充実を図り、地域社会のリーダーとして活躍する人材を育む</p>	<p><b>【行きたい学校・探究学習】</b></p> <p>(1) SP の時間を通じた自己探究・進路探究の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案や行動につながる探究学習を行う</li> <li>・探究学習を通して志望理由書等の進路資料作成スキルを向上させている</li> <li>・「SP での自分の取組を、自己 PR や志望理由書作成につなげることができた」と回答する生徒の割合 50%以上</li> <li>・校内での中間発表会・探究活動発表会を実施し、生徒の学びの発信の機会をつくる</li> <li>・年 3 回以上、校外での発表会に参加するとともに質の向上を図る</li> <li>・県教育委員会「行きたい学校づくり探究推進事業」の志埜地区拠点校として、コンソーシアムの構築及び運営に取り組む</li> </ul>	教務課 進路課

様式第1号

		(2)企業、行政、大学等と連携し、地域社会と協働した探究の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「焼津の魅力発信プロジェクト」、「スマイルプロジェクト」、キャリアデザイン講演会の実施</li> <li>・大学との連携による企画を実施し、生徒の学びの幅を広げる</li> </ul>	進路課
カ	周囲との協調性を重視し、他者の人格や人権を尊重する豊かな人間性を備え、多様な他者と協働して活躍する人材を育む	(1)【いじめの根絶】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ防止講座（生徒対象）の実施</li> <li>・いじめ防止研修（教員対象）の実施</li> <li>・いじめ防止対策基本方針に基づく取組の実施</li> <li>・情報モラルの指導</li> <li>・いじめアンケートの実施 年2回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめによるトラブルの事前防止</li> <li>・いじめ対応の確実な実施</li> <li>・情報モラル関連のトラブルの減少</li> <li>・いじめ対策委員会の定期開催</li> </ul>	生徒課 相談室 全職員
		(2)HR活動、特別活動、部活動等を通じた異なる他者を尊重する雰囲気づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「悩みを相談できる相手が一人でもいる」と回答する生徒 80%以上</li> <li>・年度当初のHR活動でエンカウンターを実施</li> <li>・「学校生活が充実している」と回答する生徒 80%以上</li> <li>・「居心地が良いクラスである」と回答する生徒 80%以上</li> </ul>	生徒課 学年部
キ	福祉・介護に関する知識及び技能を高め、持続可能な共生社会の担い手としての人材を育む	(1)福祉教育の充実及び地域と連携した人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の福祉への関心を高め、自ら課題を発見し、改善につながる提案ができる力を育成する</li> <li>・地域の高齢者施設・障害者施設と連携しながら、介護実習を実施する</li> <li>・介護実習及び介護技術コンテスト等を通して、技量や意識を高める</li> <li>・福祉科説明会の実施、福祉科個別相談会の実施、福祉科広報物の作成を通して、中学生や地域に福祉科教育への理解を図る</li> </ul>	福祉科
		(2)ボランティア活動、社会貢献活動への積極的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア、社会貢献活動に参加する生徒 60%以上</li> </ul>	生徒課

様式第 1 号

ク	職員のウェルビーイングを追求し、働きやすさと働きがいを両立する	(1) 休暇取得促進日の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休暇取得促進日に休暇を取得できる職員の割合 90%以上</li> <li>・ 夏季休暇取得率 100%</li> </ul>	全職員
		(2) 定時退庁日、最終退庁時間を意識した働き方の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各分掌における業務について、優先順位や軽重を再検討し、スリム化に取り組む</li> </ul>	全職員
		(3) 各種会議の効率的な運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 効率的に業務を進め、時間外労働時間を昨年度より削減する</li> <li>・ 会議時間短縮のための工夫の促進</li> </ul>	全職員
		(4) ワーク・ライフバランスの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県部活動ガイドライン改定版に基づく持続可能な部活動の実施を通して時間外勤務時間の削減を図る</li> <li>・ 業務の質と量、かける時間について自ら妥当性を考え、心身の健康を確保し、ウェルビーイングな学校の雰囲気醸成する</li> </ul>	全職員
		(5) 教職員が信頼し合い、長所を認めて学び合い、互いに職業人としての技量を一層高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自身の仕事に働きがいを感じている職員の割合の向上</li> </ul>	全職員
		(6) 「学校環境改善を起点とした組織力の向上及び不祥事対策プロジェクト」への協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員ストレスチェックでの状況改善への協力</li> <li>・ 年 2 回のアンケート調査への回答と分析に対する打ち手の実施</li> </ul>	全職員